

# 災害時の子育てに関する情報

健康  
(からだ)

災害時における子供への  
アレルギー疾患対応  
(Medical Note)



子どもと災害  
(公財) 日本小児科医会



災害時に備えるべき  
アレルギーフリー非常食  
(防災と減災の情報サイトあんしんラボ)



健康  
(アレルギー)

災害時のこどものアレルギーに関する  
相談窓口  
(メール: sup\_jasp@jspaci.jp)



災害時のこどものアレルギー疾患  
対応パンフレット  
(日本小児アレルギー学会)



生活・体験、  
お役立ち

乳幼児親子に  
向けた防災啓発  
(防災ママかきつばた)



被災地の子どもと  
ママを支援  
(サンサポートオカヤマ)



自治体ホームページ  
(倉敷市)



倉敷市  
真備支え合いセンター  
(倉敷市社会福祉協議会)



福祉と災害を研究する  
まちづくり会社  
(お互いさまセンター まびラボ)



健康  
(こころ)

災害時の子どもの心のケア  
(ユニセフ)



ストレス災害時こころの  
情報支援センター  
(国立精神・神経医療研究センター)



西日本豪雨災害  
子どもの心のケアに関する情報  
(国立成育医療研究センター)



(妊娠・出産・産後など)  
乳児・女性の健康

授乳の情報と相談  
(NPO 法人ラ・レーチェリーグ日本)



助産師が伝える  
災害時の知恵ぶくろ  
(日本助産師会)



# 災害時の子育て

平成30年7月豪雨  
実体験からのヒント

岡山県倉敷市真備町



## 災害時の子育てをめぐる「声」

## 子どもの笑顔を取り戻すために 子どもの様子が気になるとき

被災後の生活で困ったことから 子どもの居場所づくり

平成30年7月豪雨による保育施設の被災と復旧

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の被災と再開

周りの人とのつきあい、自分のこと 被災後の生活のポイント  
災害時の子育てリアルボイス

発行: 災害と子育て研究会

発行日 2021年3月  
発行 災害と子育て研究会

編集 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 倉敷市立短期大学  
岡山大学教育学部松多研究室 岐阜大学地震工学研究室防災グループ  
岡田地区まちづくり推進協議会 サンサポートオカヤマ

編集デザイン 福井圭一  
イラスト T. OKANO しらいたかひろ

問い合わせ 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 (阪本) sakamoto@drg.u-hyogo.ac.jp  
倉敷市立短期大学 (平岡) hiraoka@kurashiki-cu.ac.jp  
岡田地区まちづくり推進協議会 (岡野) okadamachikyog@gmail.com

\*この冊子は、兵庫県立大学男女共同参画推進室(神戸防災キャンパス分室)の事業として作成しました

この冊子の著作権は「災害と子育て研究会」に帰属します。著作者に無断の掲載内容の改変はお断りいたします。





先々の見通しが立たないことが不安だった。学校が始まって避難している実家から学校が遠く送迎が大変だった。早々に学童を再開してくださり本当に助かった。

子どもが騒いで迷惑になるかと思い、車の中で寝たり、岡山の妹の家に避難して真備まで通った。ママ友に聞いた話では子どもの声がうるさいと苦情がでたらしいので、避難所に行かなくてよかった。

岡山に身内が誰もいないので小さい子ども2人を抱えての避難所生活は迷惑もかかるし、厳しい、家の掃除もできない。車2台とも水没したので、車を借りて県外にある実家に子どもを預けに行った。子どもと会えなくて辛いうえに家の掃除や片付けに追われて辛かった。ちょうど子どもが歩き出す成長も見られなくてとても辛かった。

生活用品、日常生活、保育園や学校への送迎。

小学校でフリースペースもあったが、子どもが他の被災している友達とどうかかわればいいのか戸惑い、ずっと夏休みもどこにも遊びに行けなかったことが可哀想に思えた。

# 災害時の子育てをめぐる「声」

真備町岡田地区まちづくり推進協議会による  
幼稚園・小学校保護者へのアンケートより\*

うちの子大丈夫なんかなあ？  
普通がようわからん。

「こんくらいのことでも相談してええんかなあ？」  
「私って困っとるん？」そんな言われても自分ではようわからんのじゃけど。

「一人でがんばらず相談して」って、  
どこの誰に何を相談したらええん？

子どもの預け先。  
不安定な子ども。

子どもの勉強の心配（受験生だったので夏休み受験勉強に真剣に取り組めなかった）被災していない側の辛さ、申し訳なさで苦しんだ。子ども達は大丈夫だろうか心配になった。

自宅、両実家が被災したため、頼る所  
がなかった。水害保険に加入してな  
かったため、先行きが不透明だった。

猛暑のため子どもの  
居場所に困った。

家の修理にいくらかかるか、  
いつから修理に入ってくれるの  
か。学校はどうなるのか、はっ  
きり決まるまで心配だった。

子どもの体調が次々に悪くなった。  
嘔吐、喘息の発作、食欲不振など。  
毎晩川崎医大救急に行ったり、電話  
で対応を相談した。自分の精神状  
態も不安定なうえに子どもの体調不  
良でいっぱいいっぱいだった。

子どもの精神状態がおかしくなりましたが、  
避難生活で狭い逃げ場のない部屋だったの  
で、夜遅く泣き叫ぶと行く当てがなくて困った。

子どもたちが速報が流れる  
たびに「逃げよう」と言った。

突然の災害を経験した人にとって、  
どのような困りごとがあり、  
何を解決したらこの先明るくなっていくのか。

平成30年7月豪雨で被災した  
倉敷市真備町の復興過程で寄せられた

子育てをめぐる「声」から、  
子育て期の方々の参考になるように、  
災害時の過ごし方のヒントをお伝えします。



\*倉敷市真備町岡田地区まちづくり推進協議会が2018年12月に岡田幼稚園・岡田小学校保護者に対し実施したアンケート結果による。回答数124件。



# 平成30年7月豪雨による保育施設の被災と復旧

平成30年に発生した台風7号に伴う梅前線の停滞により、倉敷市では7月5日～7日にかけて雨が降り続き、小田川とその支流が破堤・氾濫・越流し真備町は大規模に浸水しました。ここでは、浸水による学校園の被害と復旧の軌跡をたどります。



まきびの里保育園



まきびの里保育園の園舎の様子

## 保育者の声 浸水被害からの復旧

7月8日(日)午後になって真備町内に入ることができたが、通行止めにより幼稚園にたどりつくことが難しかった。少人数の園だったので、8日には保護者の協力もあり園児の安否確認ができた。園児16名のうち11名が被災していた。9日(月)には委員会より招集がかかり9階に集合した。そこで市の対応とこれからのことを聞き幼稚園のカギを渡して帰った。施設課の点検が終わるまでは、園舎の中に入らないようにと指示があった。10日(火)になって早朝5時に真備町に入ることができた。一面泥をかぶった真っ白い状態の道路の中、やっとの思いで幼稚園にたどり着いた。幼稚園は想定よりも被害が小さかったので安心したのを覚えている。11日(水)より復旧作業に入れるようになった。とはいえ職員5名のうち2名は被災しており、どう片付けをしたらよいか途方に暮れていた。そこへ呉妹小学校の先生たち5名が応援に駆けつけてくれ片付けを始めることができた。また、地域の方や卒園児の保護者も応援に来てくれ、水を運んでくれたり、トイレ掃除をしてくれた。13日(金)からは市内の学校の先生たち、延べ100人以上の方々がやってきて掃除が進んでいった。床上5~6cm程度の浸水であったが、何度拭

いても泥がきれいにならなかった。また、作業も後手になり、消毒などのこともわからないままであった。しかし、たくさんの方々の応援で、8月中旬には作業のほうも少しめどが立ってきた。呉妹地区は被災していないと思われていたようで、支援物資がほとんど届かなかった。旧職員が支援物資をたくさん持ってきてくれたことをきっかけに、保護者に声をかけ提供することができ、久しぶりの再会で子どもも保護者も笑顔が見られた。

今回のことで、自宅から職場までの道が、どのようにつながっているのか普段から知っておくこと、地域的に情報が全く入らなかったのも、情報の収集や実情の発信方法を知っておく必要性を感じた。また、保護者支援という点では細かいことにまで配慮ができなかった。家庭の状況によって支援してほしいこともたくさんあったのではないと思う。幼稚園が地域の核としてあることも強く感じた。園の中ではできるだけ子どもが落ち着いて生活できるように、保護者も安心して過ごすことができるようにと、行事の工夫をしながら子ども達の支援にあたって

呉妹幼稚園 園長

## 保育施設が復旧するまで

2018年7月	8月	9月	10月	11月	12月
<ul style="list-style-type: none"> <li>7/7 真備地区保育園・幼稚園休園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7/9 市内他地区保育所における緊急一時預かり</li> <li>7/12~19 未被災幼稚園緊急一時預かり(保護者の要望から急遽開始)</li> <li>7/19~10/31 他地区保育所等における緊急代替保育</li> <li>7/20-8/31 真備地区の公立幼稚園を活用した仮園舎で一日預かり保育</li> <li>7/30 真備かなりや保育園舎2階での保育再開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9/1 まきびの里保育園、旧穂井田幼稚園舎を利用した仮園舎で再開</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>11/1 まきびの里保育園仮園舎(プレハブ)完成、再開</li> <li>真備かなりや保育園・真備かなりや小規模保育園復旧再開</li> </ul>	<p>再開後初めての運動会</p>

## 幼稚園・保育園の被害と再開状況

	園名	在籍園児数(人)		被災状況	再開状況		被災園の旧園舎の再開
		2018年5月1日	2020年5月1日				
幼稚園	川辺幼稚園	76	37	1階建の園舎が浸水 使用不可	9月3日 菌幼稚園(合同保育)		2020年2月12日
	箭田幼稚園	68	37	1階建の園舎が浸水 使用不可	9月3日 二万菌幼稚園(合同保育)		2020年2月18日
	呉妹幼稚園	15	16	1階建の園舎が浸水	9月3日		
	岡田幼稚園	62	44	被災なし(一時預かり支援)	9月3日		
	菌幼稚園	36	20	被災なし(一時預かり支援)	9月3日 川辺幼稚園(合同保育)		
	二万幼稚園	18	17	被災なし(一時預かり支援)	9月3日 箭田幼稚園(合同保育)		
保育園	まきびの里保育園	194	200	1階建の園舎が浸水 使用不可	9月1日 旧穂井田幼稚園舎にて仮再開	11月1日 仮園舎(プレハブ)で再開	2021年秋(予定)
	真備かなりや保育園	158	165	2階建の1階が浸水 使用不可	7月30日から3歳以上児は園舎2階を修理して保育再開		2018年11月1日
	真備かなりや小規模保育園	18	19	1階建の園舎が浸水 使用不可	0歳、1歳、2歳児は他施設を利用		2019年2月1日
	真備かなりや第二小規模保育園	15	19	1階建の園舎が浸水 使用不可	9月1日から全年齢児の保育再開		2018年11月1日
	ナーサリーあんど	8	4	3階建の1階保育園が浸水 使用不可	7月12日 他施設利用	9月21日 柳井原民間企業施設	2019年2月 1日

水害により、保育施設も被災

幼稚園・保育園の先生方も被災

誰もが災害対応に追われていました

(出典) 倉敷市「平成30年7月豪雨災害からの復興への記録」2020年に基づき作成。在籍園児数は倉敷市資料による。



# 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の被災と再開

(写真) 地域住民提供

川辺小学校、箭田小学校、真備中学校、真備東中学校、真備陵南高等学校、まきび支援学校は浸水により、岡田小学校、菌小学校、二万小学校は浸水は逃れたものの学校が避難所となり校舎を使用できなくなりました。7月9日、10日は学校は休校、その後前倒して夏休みとなり9月3日に再開しました。被災した学校は、仮校舎での授業再開となり、その後、プレハブ校舎を経て本校舎での授業再開までほぼ2年を要しました。本校舎に戻った後も、新型コロナウイルスの感染拡大により学校が休校になりました。



被災した箭田小学校 (2018年7月7日)



プレハブ校舎 (箭田小学校)



岡田小学校避難所

## 小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の被害と再開状況

学校概要			2018年9月	2018年10月	2019年9月	2020年1月	2020年3月	2020年4月	2020年5月	2020年6月～	
学校名	児童・生徒数		平成30年7月豪雨				新型コロナウイルス				
	2018年5月1日	2020年5月1日	被害状況等	仮校舎にて授業再開	プレハブ校舎にて	授業再開	本校舎にて授業再開				
川辺小学校	297	290	校舎1階が浸水し使用不可	連島東小学校 連島東幼稚園	菌小学校敷地のプレハブ校舎にて授業再開 (2018年10月9日～)	本校舎にて授業再開 (2020年1月8日～)	臨時休校 (2020年3月2日～26日)	臨時休校 (2020年4月22日～5月20日)	分散登校 (2020年5月21日～31日)	授業再開	
箭田小学校	287	261	校舎1・2階が浸水し使用不可	玉島小学校 県立玉島高等学校	二万小学校敷地のプレハブ校舎にて授業再開 (2018年10月9日～)	本校舎にて授業再開 (2020年2月18日～)					
岡田小学校	222	219	学校を避難所として利用		授業再開						
菌小学校	245	226	学校を避難所として利用		授業再開						
呉妹小学校	65	61	学校を避難所として利用		授業再開						
二万小学校	82	71	学校を避難所として利用		授業再開						
真備中学校	248	231	校舎1・2階が浸水し使用不可	倉敷芸術科学大学 26号館	真備東中学校運動場のプレハブ校舎にて授業再開 (2018年10月1日～)	本校舎にて授業再開 (2020年3月2日～)					臨時休校 (2020年3月2日～26日)
真備東中学校	394	383	校舎1階が浸水し使用不可	霞丘小学校							
真備陵南高等学校	168	121	校舎1階が浸水し一部の施設が使用不可	市立工業高等学校 県立倉敷工業高等学校	敷地内のプレハブ校舎にて授業再開 (2018年10月9日～)	本校舎にて授業再開 (2020年2月3日～)	臨時休校 (2020年3月2日～21日)	臨時休校 (2020年4月22日～5月31日)		授業再開	
倉敷まきび支援学校	知的障害部門	高等科	174	151	校舎1階が浸水し使用不可	敷地内のプレハブ校舎にて授業再開 (2018年9月10日～)		本校舎にて授業再開 (2019年9月2日～)	臨時休校 (2020年3月2日～19日)	臨時休校 (2020年4月22日～5月31日)	授業再開
		中等科	59	61		倉敷市立倉敷支援学校					
		小等科	89	80		県立岡山南支援学校					
	肢体不自由部門	小・中・高	25	26		県立早島支援学校					

(出典) 倉敷市「平成30年7月豪雨災害からの復興への記録」2020年及び学校提供資料に基づき作成。在籍児童・生徒数は倉敷市資料による。



最初はバス通学が楽しかったけど、だんだん疲れてきた

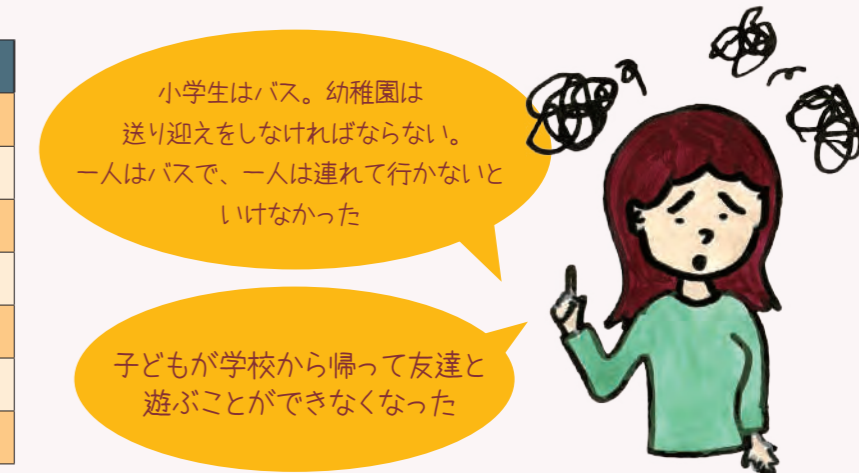
学校が遠い

## 学校再開と通学をめぐる課題

真備から離れた総社市や玉島・水島地区のみなし仮設住宅に入居した人もいたことから、学校再開にあたっては、スクールバスやタクシーを利用した通学支援が行われました。乗車時間は概ね1時間程度で、停車場所は基本的には既存のバス停が利用されました。久しぶりに友だちと過ごせることに喜びつつも、なかには、通学に2時間を要する子どももおり通学の悩みも。

年月	利用者数(1日)	送迎手段
2018年9月	1320	バス38台+タクシー
2018年10月	1080	バス31台+タクシー
2019年4月	961	バス28台+タクシー
2019年12月	746	バス23台+タクシー
2020年3月	189	バス6台+タクシー
2020年4月	130	バス4台+タクシー
2020年8月	54	タクシー

(出典) 倉敷市「平成30年7月豪雨災害からの復興への記録」2020年に基づき作成。



小学生はバス。幼稚園は送り迎えをしなければならない。一人はバスで、一人は連れて行かないといけなかった

子どもが学校から帰って友達と遊ぶことができなくなった



# 被災後の生活で困ったことから

## 避難の仕方

### ● どこに避難するのかわからない・・・

防災行政無線のサイレンを聞いた子どもが不安がる、自宅の近くに大きな川があり水が増えている、自宅の裏山からゴロゴロという音がする・茶色の水が流れ出ているなどのいつもの違う状況があれば速やかに自宅を離れて安全な場所に避難しましょう。災害が発生する危険性があると、小学校・中学校や公民館などに「避難所」が開設されます。避難所が開設されるのは、市町村が避難情報（避難準備・高齢者等避難開始）を出すタイミングです。自宅近所のどこが避難所になるのか、日頃からハザードマップで確認しておきましょう。ハザードマップは市町村から配られています。

### ● 避難しても子どもが周りに迷惑をかけるから・・・

どこに避難するのかの選択は、「その時のあなた（達）にとってベスト」の視点で選んでください。子どもがストレスから夜泣きや叫んだり、走ったり、周囲の目が気になることもあります。それは当然のことです。避難所、車中、自宅、親戚宅などいろいろありますが、その時の状況で避難所には、受付等の被災者の情報を集約している人に、被災していること、不安に感じていることを伝えてください。被災後の生活支援等の情報、物資を受け取る時に役立ちます。

### ● 何を持って逃げればいいのかかわからない・・・

着替え、水、食料、懐中電灯、消毒液、生理用品、ティッシュ、タオル、医薬品、マスク、筆記用具、ビニールシートに加えて、抱っこ紐、粉ミルク、オムツ、おしりふき、ウェットティッシュなどの普段ママバッグに入れているモノは、災害時にも役に立ちます。

- ・避難所には離乳食やアレルギー対応の食料はないので、準備しておきましょう。
- ・子どもの気がまぎれるようにおもちゃやゲームも持って避難しましょう。
- ・車がないと避難生活で移動に困ることも。車を使っている人は、自分も車も早いタイミングで安全に避難させましょう。

### ● 車中泊はエコノミークラス症候群の危険性があります・・・

避難所での混雑を避け、車中泊を考えている人もいますが、車中泊にはエコノミークラス症候群（肺塞栓症）になる危険性があります。肺塞栓症を発症する人の3割は女性、それも災害発生から1日～3日以内の発症が多いというデータもあります。車中泊はあくまで安全確保のためと考え、車中泊する場合は、同じ姿勢でじっとしていない、着圧ソックスをはく、水分を多めにとることを心がけてください。車中泊に備え、携帯トイレ、水、着圧ソックスは車の中に入れておきましょう。

## 避難生活

### 断水、「水がない」で困ったとき

#### ● ミルクが作れない・・・

支援物資が届いたらそれを利用。それまではおっぱいを吸わせる（出が心配な人でも、吸わせ続けていると出る量が増えてきたり、吸わせることで母子の気持ちが落ち着いたりします）、水分（何も無い時はミネラルウォーター）を与えましょう。あとは、届いた物資で、その時の子どもの発達にあうものを選んで与えていきましょう。

#### ● 哺乳瓶が洗えない・・・

ミルクをあげる時に、きれいなスプーンで少しずつ口に入れり、角をつぶした紙コップのようなものを使うなどして、赤ちゃんの唇にあてて、少しずつ唇を浸すように、慣れてきたら含ませる量を増やすようにして飲ませてみましょう。

#### ● トイレ

トイレが整備されるまで時間がかかりますが、仮設トイレや避難所のトイレは、子どもが「汚い」「くさい」「和式は使ったことがない」などの理由で行きたがらないことがあります。トイレに行くことを我慢して、便秘や膀胱炎などになることも。慣れるまでの間、時間を見てトイレへ行くことを促したり、一緒に行ったり、どうしても排泄できない場合は、紙おむつなどを使うなど、その子に合わせた工夫や配慮が必要です。この時、必ず子どもの恥ずかしい気持ち、プライバシーには配慮してください。また、どんな場合も強要はしないようにしましょう。

#### ● お風呂

お風呂は共同になることが多く、周囲に気兼ねしてきれいにできなかったという声も。特に子どもがいる場合、入るので精いっぱいという声も。ちょっと工夫して、施設の利用時間を短くしてみましょう。たとえば、着替えは全部袖通りしておいて一気に着せたり、お尻や首回りなど先洗いして流すだけにしたり。これは、寒い時にも役に立ちます。まずは、焦らずにいきましょう。

#### ● 食事

台所で調理ができなくなると、避難所で配られるパン・おにぎり・お弁当の生活が続きます。お弁当は味付けが濃いうえに冷めていることも。子どもが食事を食べたがらないこともあります。食欲がないときは、食べ慣れたもの、食べやすいものから。カセットコンロやポットでお湯をわかせるようになると、温かいものが食べることができホッとします。



## 「罹災証明」が生活再建の第一歩です！

被災した場合に必要な書類が、住家等の被害の程度を証明する「罹災証明書」です。罹災証明書は、市町村の窓口で申請します。住家の被害調査（被害認定）が行われ、被害程度（全壊・大規模半壊・半壊・一部損壊）に応じ証明書が発行されます。罹災証明書は、仮設住宅への入居手続き、生活再建支援金・義援金の受給手続きに必要な書類ですので必ず申請手続きを行いましょう。なお、認定結果が、実際の被害に対して軽すぎると感じた場合は「不服申請」を出すことも可能です。

## 被災後の住まいの流れ

### 避難 (発災～6ヵ月)

【避難所】  
自宅で生活ができない場合は避難所に行きます。避難所は集団生活ですが、物資・情報が集まりやすく、生活再建のヒントが多くあります。  
【避難所外避難（自宅・親戚宅等）】  
被災した自宅2階で生活する、親戚宅に避難する等の避難もあります。指定避難所以外の場所に避難する場合は、避難所に物資・情報を取りに行くこともできます。親戚宅等に避難する時は最低限の食料を持っていくと良いでしょう。

### 仮住まい (2ヵ月～2年)

住居が全壊する等の被害を受けた場合、応急仮設住宅が提供されます。応急仮設住宅には、新たに建物を建設するもの（建設型仮設住宅）、民間賃貸住宅を行政が借上げ提供するもの（借上型仮設住宅）、公営住宅を提供するものがあります。いずれも家賃は無料ですが、光熱費・管理費・駐車料金・自治会費は自己負担となります。無償供与期間には時限があります（原則2年間）。

### 住まいの再建

住居が被害を受けた場合は、被害箇所を修理・リフォームする、自宅を再建する、（復興）公営住宅に入居する等の方策があります。住居の被害程度と再建のパターンに応じて、それをサポートする制度（応急修理、生活再建支援金等）もあります。ただし、支援金額は大きくないので自己負担を減らすためにも保険（火災保険の水災補償）には入っておくようにしましょう。



# 子どもの居場所づくり

保育園・幼稚園・小学校も被災して休園・休校に。自宅・近所の公園も被災。

家の片付けをする間、子どもの居場所をどうする？

真備町では、「家の片付けをする間子どもを預けられないか」という保護者の声にこたえる形で、

保育園・幼稚園関係者、ボランティアによる子どもの居場所づくりがボランティアな取り組みとして行われました。

## 緊急的一時預かり支援（倉敷市）

真備地区の園に入所中の園児や真備地区で被災した人を対象とした緊急一時預かり支援が行われました。いずれも利用料は無料。

### ●3歳児～小学3年生

期間：7月20日～8月31日 平日8:00～18:00 土・日・休日保育

場所：岡田幼稚園・菌幼稚園・二万幼稚園

### ●生後3ヶ月～3歳未満

期間：7月14日～8月31日 9:00～16:00

場所：真備公民館二万分館

## 岡山県・岡山県立大学による一時預かり支援

### ●3歳児～小学3年生（述べ787人が利用）

場所：岡山県立大学チューピーひろば

期間：7月18日～8月29日 9:30～16:00 月～土

避難所（岡田小学校・菌小学校・二万小学校）からバスで送迎

## 児童クラブや児童館

### ●児童クラブ

玉島地区長尾と呉妹の児童クラブが中心となって、被災地区の小学生を受け入れました。利用した子どもたちが、これに「まびひょっこりおもしろおたからクラブ」と名付けました。

期間：7月12日～12月22日 8:00～19:00

場所：玉島公民館長尾分館（10月10日から真備地区内公民館に移動）

### ●児童館

全壊した真備児童館は10月1日から真備保健福祉会館を臨時会場として業務を再開、2020年3月22日元の場所に復旧しました。

保育士の声

私たちががんばれば

この町は続いていく。

子どもの一時預かり支援は保護者をサポートするための仕組みです。被災すると、家の片付けや支援の申請手続き等しなければならぬことがたくさん。手続きを進めるためにも、使えるサービスはどんどん利用しましょう。



**託児 やってます!** 日・祝日も

西日本豪雨災害で被災された世帯の方を対象に子どもさんの預かりを行っています。皆様、ご利用ください。

場所：真備公民館二万分館  
倉敷市真備町上二万392-1

利用料：無料  
対象：生後3カ月～3歳未満  
お預かり時間：9時～16時  
（お子様の状況により、ご相談させていただきます）

期間：8月1日～8月31日（日・祝日も毎日実施）

軽食、並びに水分補給等はこちらで提供します。紙オムツ・衛生用品も準備は不要です。※食事・着替え等、お子様の状態（アレルギー等）にあわせてご持参いただいても構いません。

原則予約制です。ご利用の1週間前から前日の12時までにお電話ください。（受付時間9時～16時）

**080-2300-3600**

倉敷市真備町福祉課・倉敷市子育て支援センター・倉敷市真備地区子育て支援拠点公民館 2016年7月



臨時真備児童館

## 保育者の声

## 一時預かり支援の取り組み

6日（金）大雨洪水警報発令のため幼稚園は休園。7日（土）明け方4時、市教委から「幼稚園を避難所として開けてほしい」と連絡を受けたが、「道路の安全の確保ができない」とのことで自宅待機との指示を受ける。8日（日）、自宅で携帯電話から「幼稚園メール」を使用し、園児の安否確認をする。数名から返信が来ず心配する。夕方には、幼稚園へ出向くことができ、岡田小の避難所を訪れた際に、聞き取りをしたり、PTA会長と連絡をとったり、度々電話をかけたが全員の無事が確認でき安堵した。倉敷市全体が9・10日を臨時休園、真備地区は19日まで臨時休業となった旨を保護者に伝える。

9日（月）この日より職員も出勤できるようになり、岡田小の避難所の様子を見に行く。日中は、家の片付け等で保護者や園児の姿はほぼ見られなかった。職員は、岡田小で清掃やゴミ集めなど、避難所での作業にあっていたが、7月12日（木）～19日（木）まで、保護者の要望もあり、急遽、一時預かりを実施することとなる。「幼稚園メール」で保護者に連絡するとともに、小学校の避難所にも、「真備町内で被災の片付け作業をしている間、3歳から小学3年生までのお子さんを預かります」といった掲示をして周知した。職員4人に加え、児童館職員・退職園長・セーブ・ザ・チルドレン等のボランティア団体、土日には、近隣の市外の小学校教諭や学生等からの申し出もあり、ボランティアで預かり保育を実施した。

7月20日～8月31日までは、教育委員会の被災者支援の取り組みとして、3～5歳児を対象とした無料一時預かり保育が、被災していない3園で実施された（岡田幼稚園は土・日・祝日も実施）。退職園長や市内幼稚園職員、また真備の公立保育園職員もシフトを組んで預かり保育に携わった。多くの方々の協力と連携を大変ありがたく思った。どの幼児も心に大きなショックを受けている時であるが、特に保育園や他の幼稚園から預かり保育を利用する子どもたちにとっては、環境が違い信頼関係もできていない場で過ごすことになる。保護者には、朝の受付時に、アレルギー、その他注意すること等の確認をしたが、本来通っている園の先生方とも、子どもたちについての情報を共有する機会を設けられれば良かったかと、後になって悔やまれた。昼食は、市より毎日支援（おにぎり・魚肉ソーセージ、ハンバーガー、ハムマヨパン・バナナ、の3パターンのローテーション）があった。台所が使用できないことはもちろん、店も開いていない状態のため、保護者も大変喜んでおられた。

9月3日（月）に2学期が始まった。3分の2以上の園児が被災しており、半数の幼児がみなし住宅から、1名は避難所からの通園であった。朝の登園時間は通常より10分程度遅くした。小中学校には通学バスが用意されたが、幼稚園への適用はないため、大半の保護者が片道30分以上かけて送迎をされた。保護者の送迎の車を、当初は小学校の運動場や広場に停めさせてもらっていたが、幼稚園用の駐車場の確保を教育委員会も働きかけて下さり、幼稚園近くに気持ちよく場所を貸して下さる方がおられ、保護者も大変喜ばれた。幼稚園に行けば、いつもと同じ友達・先生・仲間に見える、話ができる、と遠くからでも頑張っている

してくる親子に私たち職員もかえって励まされる思いであった。

新学期が始まるにあたって、弁当を持たせることが難しい保護者には、宅配弁当300円の利用ができるようにした。また、既定の制服や用品、通園バック・上靴袋などの手作り品など、園生活に必要なものを色々な支援団体や市・業者が提供して下さったのも有り難かった。また、岡田に親戚があるという制服業者は、同業者に声掛けをして集めた在庫品（いろいろな園の制服）を山のように届けて下さり、真備町内の園にも分配した。保護者も洗い替えにと大変喜ばれた。

園が再開して、保護者にアンケートをとると、被災していない保護者も辛い気持ちを持っていることが分かった。改めて、この地域に住む誰もが被災者であり、災害はどの家族にも辛い体験を強いていることを痛感した。また、預かり保育を利用した保護者からは、「子どもたちを見てくださり、安心して片付けができました」「いろいろな方からの応援が嬉しかった。前向きに頑張ります」「いっぱいの中、頑張ろうね、と手を握ってくださった、あのぬくもり・力強さが嬉しかったです」とたくさん感謝の声があり、改めて大変な中、職員一丸となって頑張ってきたと感じた。

今回の災害は、本当にあってはならないつらい出来事ではあったが、多くの方々の応援や支えがあったからこそ乗り切ることができているのではないと思う。自分たちも被災しているながらも幼稚園のためにと尽力して下さる地域の方々の愛情も大変心強かった。また、職員一丸となって対応ができる人間関係ができていたことも一番の力であったと思う。「やっぱり、岡田が一番です。大変ですが、帰ってきます」「幼稚園の送り迎えでみんなに会うことができるほっとします」「先生たちが明るく接して下さること、一生懸命頑張ってくださいることがうれしいです」などの保護者の声をありがたく思うとともに、改めて幼稚園や職員の役割を考えさせられた。保護者や子どもたちの思いに一層寄り添いながら、今後も『岡田の輪・和』をもって職員一同頑張っていきたい。

岡田幼稚園 園長



岡田幼稚園

子どもの声は生きるのぞみ

そしてまちの未来。



# 子どもの様子が気になるとき

## ● 成長発達

「赤ちゃん返り」「できたことができなくなった」「欠席したことで授業の遅れが気になる」「(いろいろなことが) おくれてたらどうしよう」と、被災後には成長発達のことで被災の影響が気になることが多いです。その時は、まず気になったことを、話せるところがあるといいですね。子どもが通う保育施設の先生や町の保健師さん、かかりつけの病院などがあります。遅れを感じるころがあっても、被災の影響の場合一時的なことが多いです。親は子どもの将来の事が不安になって、過剰にいろいろなことをさせたくなりがちですが、子どもにとって、結果的に負担になったり、不安なことを引き寄せがちです。先の事を考える機会が多い時期だけに「この先、このおかしな(と感じた)ところが心配」と思いがちです。不安を感じたら、考えすぎて不安を呼びこむ前にまず誰かに話してみましょう。

## ● 病気

持病があって薬が切れそうだったり、様子が急に変わるようなときは、受診可能な病院までの移動時間などを考えて早めに受診するよう心がけましょう。かかりつけ医が被災している場合もあるので、保険証と母子健康手帳、お薬手帳などを持参してください(持っていたら)。いろんな事情があって通院が難しい場合もあります。専門機関につながるまでの間、とても不安だと思いますが、そんな時こそ、しっかり自信をもって子どもと接しましょう。「病気を疑ったら、早めに受診できる病院へ」

## ● ココロ

夜泣きや赤ちゃん返り、落ち着きがないなどいつもと違う様子が見られることがあるかもしれません。それらは子どもが出してきた「不安だよ」「安心したいよ」のサインです。こんな時、「子どもだって不安になるのはとても自然なこと」と受けとめてみましょう。その時、家族が子どもに向けてやる事は、子どもにとっては生涯力強い味方になり、不安を乗り越える助けになります。

たとえば…

### おなかを痛がる

そっと手を当てて「ここかな?」と痛い気持ちに寄り添ってみましょう。そして、やさしくさすってみましょう。

### 夜泣きのとき

背中をさすって抱っこしたり添い寝してみましょう。なかなか泣き止まなくても、気持ちの中の安心感は少しずつ大きくなってきているはず。

後追いしたり離れないとき、この先どうなるんだろう、治らなかつたら…と不安になることもあるでしょう。でも、それは子どもにとっては、不安な時にあなたがいることで、安心を感じたり確かめるための行動です。子どもの心の中の不安な気持ちに、安心の気持ちが少しづつでも大きく育つのを待つように、とにかく一緒に寄り添うように接しましょう。「どんな風になったら相談したらいい?」と迷ったら、その迷った気持ちを相談したらいいですよ。後回しにしたとき、後悔することも。うまく相談できないかも…と思ったら、うまくなくても、まずは実行のための一歩を踏み出しましょう。



# 子育て

## ● 子どもへのかかわり方 (上手く一緒に遊べない、怒りすぎる、気持ちがコントロールしにくい)

あなた自身が疲れ果てたりして、余裕がなくなってませんか?自分のことを後回しにしてませんか? まずは自分に聞いてみましょう。自分自身のケアがちゃんとできて、心身が落ち着いたら変わることもたくさんあります。怒りすぎることを自覚したときは、それをやめるチャンスです。怒りそうな気配を自分に感じたとき、そっとその場を離れたたり、深呼吸したり、気持ちを切り替えたり。あと、信頼できる誰かに気持ちを聞いてもらうのもよいでしょう。自分一人ではなく、頼りになる人、相談できる人を見つける、考えすぎない、悩み過ぎない、助けて欲しいと声を出すことも変わるための大切な方法です。

## ● 子どもが学校に行かない・行けない・・・

まずは、子どもの声を聴いてあげましょう。ひと息つきながら、責めず、焦らず、一つ一つのことに向き合ってみましょう。ずっと続く問題ばかりではなくて、一時的なこともあります。被災のストレスや急激な生活の変化によって、心身が疲れてしまったり、自分の気持ちがどうしていいのかわからなくなったり、学校や先生とのやりとり、友だち関係など子どももいろいろ感情の動きや事情があります。早い時期に周りの理解が得られて少しお休みすることで元気を取り戻すこともあります。「この子の味方になる」という気持ちで子どもに寄り添い見守りながら、乗り越えていく応援者でいてください。

# 子どものこころのこと

子どもの気持ちが心配

この調子はいつまでも続くの?

夜泣きとかそわそわしたりするけど、これってひどいほう?

子どもの変化に気付いてやってなかった? いまからでも遅くない?



この時期の子どもの不調は安心したいのサイン。焦らないで、子どもの言葉を聞きましょう。悩みや泣くことには、その調子に合わせて、付き合う気持ちで。それが子どもの心の中の安心の気持ちを増やしてくれます。





# 周りの人とのつきあい、自分のこと

## ● パートナーや家族との関係

被災は非日常の始まり、いつもと違うことがたくさん起きる中で、パートナーや家族との関係も、今までになかったことを経験することが多分にあります。被災のショックで一時的に人柄が変わってしまったり、しんどすぎていつもよりもキャパが小さくなったり。家族の中で支えあうことが大切な時期、とはいえ、辛い気持ちが連続するようでは、今は我慢だけでやり過ごしても、後々そのことが原因でいろいろと関係性が変わることがあります。まずは、「今、自分が安全で安心できるにはどうしたらいいか」と考えて、自分にとって傷つかず、相手や出来事との「つらくない距離」を探ってみましょう。今を、うまく乗り切ることで後々落ち着いた時により関係に戻れることもあります。心理的にも物理的にも「適度な距離」が取れる工夫をお勧めします。

## ● 人とのつきあいが難しいと感じたとき...

被災によって、心身共に傷ついている時に経験しやすい感情です。そんな時は、無理にかかわろうとしないこと。「今はおやすみ」の時期と自分に言い聞かせてみましょう。

## ● 自分のこと...

災害にあったあなただから、「今」ケアしましょう...多くの被災した人は、発災後早くから「眠れない」、「不安」、「疲れた」、「いつまで続くのか...」といった気持ちを抱えて過ごしています。「家がなくなった」「まちが変わってしまった」と、日頃大切にしていたものを喪失したことを経験しています。そんな時、すでにあなたは「心のケア」が必要な人になっています。早くケアをはじめると、苦しみを軽くしていきましょう。

## ● 妊娠している(かもしれない)...

「妊娠は病気じゃないから、我慢できる・しないと」という風に考えることはなしですよ。「あなたは守られるべき存在」であることを忘れずにください。被災地では、家族の世話や今の生活に一生懸命になったり、周りに気を使われたくない気持ちになりがちで、それが流産の原因になることもしばしばあります。のちに、ひどく自分だけを責めて苦しむ女性と多く出会いました。悔いがないように、「つらい」とか「困った」をしっかり声にしましょう。

なんだか辛いしんどい

疲れが取れない  
何もする気が出ない

こうなったのも、  
あの時〇〇したのが  
いけなかった

子どもや家族を優先し  
なきゃ

私より他の人のほうが  
被害がひどいんだし、  
甘えちゃいけない

落ち着いてから  
ゆっくりしよう

災害にあったあなただから「今」  
ケアしましょう。自分を後回しに  
しないで。どんな時も焦らない。  
責めない。人と比べない。自分の  
心と身体の声聞き、  
大切にすることを  
忘れずにいましょう。

# 被災後の生活のポイント

- ・自分自身の気持ち（こころ）と身体をないがしろにしていますか？と自分にたずねて、セルフケアを大切に。今が、ケアを始めるタイミング！
- ・先のことを考えすぎないようにしましょう。
- ・がまんしすぎは禁物。息をつめずに、ふう〜っと息をぬきながら過ごしましょう。
- ・どんな時でも、その時の自分が精いっぱい決めたことです。「今の決断がベストアンサー！」「たれば・・・は無し！」
- ・パートナーや家族との関係がづらいと感じたときは、自分にとって苦しくない、楽な距離をとるようにしましょう。被災後は、非日常の連続です。落ち着いたら戻ることもあります。それまでは、まずは自分が安全に過ごせるようにしましょう。
- ・子どもの様子が気になるときは、まずは子どもの調子にあわせましょう。

## ● あなたが「話しても大丈夫」「安全」と感じる人を相談相手に

困ったこと、迷ったこと、わからないことなど、自分から声を出して相談しましょう。避難所や保健センターにいる保健師、地域の相談役（民生委員など）、子育て支援センター、幼稚園や保育園のスタッフなどがいます。とはいえ、誰に声をかけたらいいのか迷ったり、うまく相談できないとき「もうやめよう」とあきらめてしまうことも。地域の相談役の人にもいろいろな人がいます。あなたが話しやすい人、話して安心だと感じる人に声をかけてみましょう。「違うな」と感じたときは、別の人に声をかけてみましょう。「あなたの声をそのまま聞いてくれる人」を探しましょう。声を出すだけで気持ちが軽くなることもあります。自分のペースで。まずは「声を出す」ことから。変わるチャンスに出会えるかも。

ちょっと考えてみましょう

- ・誰に相談しますか？（例）名前や職種など
- ・連絡先は？（例）電話番号など

## セルフケア こんな風にすごしてみよう

- ・ぼーっとする
- ・深呼吸する
- ・誰かに背中をなでてもらう（トントンでもいいよ）
- ・歌う
- ・泣く
- ・好きなことを優先する  
好きな音楽を聞く 好きな本を読む
- ・嫌なことはしない・距離をおく
- ・おしゃべり
- ・相談する

どれでも効果大！自分に、「やりたいことをやる！」を許してあげましょう。





# 災害時の子育てリアルボイス

**声 Aさん**  
子ども：被災時小6・小3・年少・5ヶ月

7月6日夜11時30分頃に爆発音があった。その前からアラームがなっていて普通ではない感じだった。家族は全員家にいた。とりえず高いところに行こうと、車で吉備路クリーンセンターに行った。クリーンセンターに行ったのは、友達や知り合いのLINEで「岡田小学校は渋滞で入れないので大変。それ以外に行かない」という情報があったから。鍵が開いており、一人職員がいた。避難所ではないから物資はなかったけれども、避難するにはよかった。駐車場は広くて、トイレもあった。車内で寝て朝を迎えた。家に帰り、朝ごはんを食べていたら田んぼの水位が上がってきた。家の近くの高台にあがった。遠い、遠い世界のように感じた。家が浸水する姿がみえた。7日の夕方4時くらいだと思う。床上190cm弱つかった。主人の実家も浸水、母・父を含め総勢14人で玉島の親戚宅に避難した。両親と主人の両親は、昼間は片付けのために真備に行き、夜は玉島の姉の主人の実家にお世話になっていた。

母子手帳、通帳、印鑑は全部ひとまとめにしている、とりえず持って避難した。それ以外は何も。家電を2階に上げる暇もなかった。両親のものは1階、家族のものは2階にあった。家は、主に、主人と父が二人で片付けた。兄の知り合いの手伝いがきてくれた。つながりを通しての支援が多かった。ボランティアが来たのは21日から。その当時は岡田にまではまわってきていなかった。

その後、自宅の二階で1週間～10日程度過ごした。自宅の二階は、電気・水道は使えた。IHのコンロがダメだったから、カセットコンロを使った。お風呂は無料開放しているところに行きたけれども、時間は決められているし、次から次へと人が来るし、落ち着かなかった。家の片付けをしてからお風呂に行くから、時間もずらせない。洗濯は、玉島にいるときには、コインランドリーに通っていた。自宅の二階にいるときには、冷蔵庫・洗濯機・

電子レンジを新しく買ったのでそれなりに住んでいた。連島ではアパートだった。みなし仮設を申し込みに行き、連島のみなし仮設に入った。自宅の近くに空いている家はなかった。病院もあるし、店もあるし便利だった。5月のGWにリフォームが終わって戻ってきた。

小学校は、即休みになっていた。小学校の学習ルームは、宿題ができるように開いていたけれども、子どもは行かなかった。友達がどこにいるのかもわからなかった。私も友達に連絡をとればよかったけれども、とにかく余裕がなく大変だったので。9月からスクールバスで通学した。でも、家からバス停までが遠かった。最初のうちはよかった。エアコンもかかるし。「バス通、バス通」といっていた。ところが、学校までは40分くらいかかる。徐々に苦痛になっていった。子どもはもともとビビリ。それまでは一人で自分の部屋で寝ていたけれども「一人では寝たくない」と。夜中の爆発が印象的だったのかもしれない。幼稚園は二学期の間休ませた。本人は友達に会いたかっただろうけれども、毎日送迎することは厳しいと感じていた。子どもを預けることは考えなかった。片付けにはノートタッチで、子どもの面倒に集中した。ミルクは、支援があったのは有難かったけれども、哺乳瓶は消毒等ができないままだった。避難する時、哺乳瓶1本とミルクを持っていた。おむつはそんなにたくさん持っていなかったの、玉島に買いにいった。離乳食が始まっていないミルクだけの時期だったからまだよかった。

直後のタイミングは本当にきつかった。お弁当を配っているのを取りに行った。暑くても、混んでいても、子どもを抱っこ紐で抱っこして並ぶ。無料でいただけるのであれば、いただかなければと思った。経済的にもリアルにお金が必要。失った物を取り戻さなければならぬ。子どもの年齢が違っていると、買い揃えなければならない。幼稚園が大変だった。送迎もないし。お弁当の準備も大変。幼稚園に一時預かりがあったけれども、幼稚園の先生ではない別の先生が支援に来ていた。延長保育は別施設だった。心のケアという点から考えると見知った人がいると安全だと思う。園長先生は、毎日来られていたようだ。

**声 Bさん**  
子ども：被災時年少

7月6日は全然危機感がなかった。自宅は小学校の近くで、避難している車で渋滞していた。爆発音が聞こえてから避難した。7日の7時から幼稚園の廃品回収の予定があったので、その準備をしていたら、9時頃に庭に水がきた。旦那さんが車を2台小学校へ避難させ、戻ったら膝まで水が来ていた。お金も何も持たず、携帯電話だけを持って、子どもを抱えて、膝まで水に浸かりながら小学校に避難した。すごい人だった。スペースがなくて、体育座りでした。人の多さに子どもが「ギャーっ」となったので、お兄さんに電話して「真備に来てほしい」と伝え、夕方に来てくれた。実家の母は弟と2階にいたままだった。「助けてください」とお願いしても「待ってください」と言われた。近所のボートで助けられて、1階の屋根を伝って降り、ボートで横溝正史疎開宅に連れて行かれてその後合流した。

被災後は、自宅の二階でずっと暮らしていた。友達がカセットコンロ、お鍋、おにぎりを持ってきてくれた。トイレ、水は小学校にもらいに行った。自宅は、天井のギリギリくらいまで浸水していた。電気も通ってなくて、携帯の充電もなかった。暑い中で、お昼も大変だから、お弁当を小学校にもらいに行った。炎天下で、屋根のないなかで、1時間待つことは大変だった。屋根がほしかった。みんな「暑い、暑い」と言っていた。年配の人が、倒れるのではと思った。暑いなかを朝・昼・晩と3回並んだ。待つのが長かった。お弁当がもらえたのは有り難い。けれども、子どもは食べなくなった。味にもあきてくる。ずっと同じような弁当、同じようなパン、メロンパンだった。洗濯は朝にコインランドリーに行ったが、すごく混んでいた。お風呂は、蔵のゆが無料開放されたけれども、すごい人で髪の毛を乾かすのも大変だった。

旦那さんは、仕事をしばらく休んでいたが、早い時期に職場に戻った。1ヶ月も休みは取れず、2～3週間くらいで仕事に行くということで、一人で片付け。旦那さんも休みの日は床を剥がしたり、一人でやってくれていた。「ボランティアは必要です」と書いたけども、「何が必要ですか？お手伝い？一杯いるの？」と聞かれ、「いつになるのかわからない」といわれて来なかった。床剥がしは、ボランティアではできないといわれた。家具出しは友人が手伝ってくれた。

幼稚園で託児が始まったという話を、いつ知ったのかはわからない。近所の人に聞き、子どもに「行こう」といっても、娘は自分から離れない。掃除に行こうとすると「その部屋入っちゃいけん」と泣いて。今、預けるのも心ない。だいぶおちついてから岡田幼稚園に預けた。8月くらいかな。昼には迎えに行っていた。私も不安で、娘も不安かな。徐々に時間を延ばして。大丈夫そうならば自分も掃除したいし、娘の様子をみながら。お昼は帰ってきてから一緒に食べて。大変だったなあ。

自分自身、大丈夫だと思っていたけれども、円形脱毛症ができていて、そのことに気づいていなかった。相当きていたと思った。しんどかった。円形脱毛症には、年が明けた3月になってようやく美容院に行って、言われて初めて気づいた。髪の毛を乾かすドライヤーもなかった。そういうことも頭にきていたと思う。今の今まで治療をしている。薬を飲んでいて、ようやく良くなった。ドライヤーも買えばよかったけれども、お金を使うのが厳しかった。家を建てて2年で再建しなければならず、保険にも入っていなかった。どうしよう、この先。買うのはもったい



なかった。買えないストレス、不安、眠れない。リフォームは、旦那さんの会社がそういう仕事なので、トイレ等も自分でつけた。自分でするから安く、水道工事・電気工事も自分で。お風呂は頼んで、トイレ・手洗いはネットで取り寄せてつけてもらった。それに1年近くかかった。この1年くらいでようやく勝手口や台所などができて住める状態になった。その間はずっと二階に住んでいた。岡田の実家の方が早く修理が終わったので、実家に冬に移動した。

旦那さんは岡山出身で自分は真備。旦那さんは、住みやすいので真備が好き。「次に災害があってもここに住む。真備はいいところじゃが」と言ってくれる。どうしようか、ここを出ようかと考えたことも。「自分たちの時代で、いい経験させてもらえたと思え」と言われました。自分がどんどん落ち込んでいたので、持ち上げるためだったのかもしれませんが。家族みんなで強くなった感じがします。

家電品は買った。全部被害にあった。おもちゃもだめ、全てがだめ。二階と一階に置くものが逆転していればよかった。二階にいらぬものばかりあり、よく使うものは下にあった。幼稚園が始まって、二階で生活していた。お弁当づくりをしようにもキッチンがない。配られるお弁当の残りを入れていた。かわいそうなんだけれども。たまにコンビニで買って、お弁当に詰めていた。その後、幼稚園で200円～300円でお弁当をだしてくれた。でも、初日から子どもは食べずに残っていた。幼稚園のお弁当はだめなのかな、と思って、コンビニやお弁当の残りを詰めていた。母親の手が入ると食べる。お弁当箱は、お風呂場で洗っていた。カセットコンロを、床において生活していた。二階は3部屋あった。お弁当箱は幼稚園から使用済みの弁当箱の支援があった。比較的新しかったけれども。水筒もお友達が貸してくれた。お箸ももらった。食器はオキシにつけて洗って使った。

子どもは夜泣きした。夜驚症。上下に体を揺らして叫ぶ。子どもなりにストレスかかっていた。兄のところを出て二階で暮らしてからは、ストレスからなのか、それが続いていた。マッサージして抱きしめてあげると落ち着いた。市の人々が家に来て玄関先で子どものきになる様子を話した。マッサージや抱きしめてあげる事は「それはいいことですよ」と言われた。子どもが「きゃーっ」となるけれども、そのことを話せる友達がいて、話す少し楽になった。自分だけで抱えていたら治りもおそかったかも。吐き出す友達がいたのはよかった。





**声 Cさん**  
子ども：被災時小3、小1

7月7日の朝は店舗裏の自宅にいた。朝7時くらいに岡田分館が浸かっていたので、高台の姉の家まで子どもを連れて避難したら、自宅と店舗が浸水し戻れなくなった。当時小学1年と3年の子ども、夫、自分、父母の6人で避難した。車は取りに戻り4台の車とともに避難したが、避難途中の道が低く浸かりそうだったので、戻れるか戻れないかと思った。叔母の家に姉家族がいたのでそこに避難したが、叔母、姉と姉の夫と子どもが2名、そして自分の家族6名、合計11名がいた。

翌々日の9日に歩いて自宅と店舗を見に行ったところ、家には入れたがグチャグチャだった。お店をどうしようか悩んだ。親戚や友人に手伝ってもらい、毎日家と店の片付け。片付けに2ヶ月かかった。ボランティアは終盤に1日だけ来てくれて、後はほとんど身内で、2m程度浸水した。

12月の大晦日に家に帰ってきた。店は、グループ補助金の関係もあり、年内に再開させる必要があったので、11月にリフォームし12月17日にオープンした。昭和51年から今の場所に店舗がある。祖父の代(昭和21年)から岡田地区の郵便局の近くで店を始め、自分で3代目である。店の再開をやめようかとも思ったが、地域の人の応援や、学生服を販売していることもあり、みんなが困るのでと再開した。

子ども二人は姉が面倒を見てくれていた。小学校の、倉敷市の託児サービスは何度か使ったが、なぜか「あまり行きたくない」と子どもが言ったのでその後使っていない。託児サービスでは勉強させられるから、行きたくないのかもしれない。片付けをしている間は滑ると危ないので、片付けを子どもにさせてはいない。姉の家には、いとも一緒にいたのでよかったのかもしれない。

学制服の無料配布は、他の地区は学校でやっていたが、岡田地区は店舗で行うことになった。最初、カンコー学生服が柳井原で無料配布を行う予定だったが、柳井原までは遠いから近くでやってほしいとの連絡がLINEであり、店舗でやることになっ

た。全学年分の制服を一つの袋にまとめるのが大変だったが、PTAのお母さんにお手伝いしていただいた。制服の配布は、9月の終わりから10月に行った。学校が始まった時は、私服で行っていた。

7月に、友達と支援情報を共有するためのLINEグループを作った。いろいろな友達から情報が来ていたので、それをまとめて発信できればと思い知り合いを誘った。参加者が増えていき150人になった。知らない人も増えた。宝石・写真の洗浄、総社の百円クリーニングやイベント、子どもの預かり、支援物資の情報を共有した。

子どもをほったらかしにしたままでかわいそうだから、8月に片付けて何もなくなった店舗で、スーパーボールすくいのような「子どもたち向けの祭りをやろう」とLINEグループに呼びかけたら、みんな手伝ってくれた。夏祭りには、たくさんの方がきてくれた。学校はまだ始まってなくて、友達同士が会えなかったこともある。勢いでやったことだが、子どもが喜んでる姿を見て、親も楽しかったと言ってきて、やってよかったと思った。その後も、ボランティアをしたいけれども場所がない、という人に店舗を貸したり、ハロウィンの飾りなども作ったりした。岡田分館はボランティア・サテライトとなっていたので使えなかったし、若い子育て世代が集える場所になっていた。PTA会長も役員も同級生で、いろいろやってくれた。

子どもを姉が預かってくれたから、店のことができた。姉の家は水も電気もきており、自分の家から近くて行き来もできた。倉敷から車で2〜3時間かけて行き来した人に比べたら恵まれていたと思うが、片付けは大変だった。車を避難させていたおかげで買い物には行けたが、困ったことだらけだった。何を捨てていいのか、残していいのかが分からず、後で後悔することがあった。食器も、取っておいてもしょうがない、衛生面や洗う労力を考えたら捨てたらいいと思って全部捨ててしまった。写真やカメラ、データも捨ててしまった。残しておけばよかった。USBメモリは乾くと使えた。残っていたUSBからはデータを取り出せた。パソコンのデータも取り出してくれるボランティアがいたが、捨ててしまてできなかった。そういうことも知らなかった。

**地域の声** **子どもの笑顔を取り戻すために**

被災後、灯りのない町を眺めながら、このまま災害なんかに負けたくない！元気な岡田を取り戻したい！でも何をすればいい？泥まみれになった大行燈を見つけて、それを暑い中、一日がかりで洗ってくれた人がいて、「子どもたちの願い飾りたい！」という思いにこたえてくれた人がいて、小さな夏祭りができる。行燈の周りで真備音頭を踊りながら、「家の明かりを増やそう」「こどもの笑顔を増やそう」そう誓った。

**2018年**

**8/4**  
泥水の中から取り出した子どもたちとの共同作品大行燈に灯りをともして小さな夏祭り笑顔の始まりです



**8/19**  
幼・小保護者夏祭り三宅呉服店の倉庫には久しぶりに笑顔がいっぱい



**9/24**  
サンマ祭 大船渡市からサンマ600匹と焼き師さん会場は長蛇の列美味しい笑顔



**10/13**  
岡田秋祭り 幼・小PTAと各種団体みんなで力合わせて600人の笑顔



**11/16**  
収穫祭 昔遊びでいっぱい遊んで昼食はみんなで豚汁、その中にさつま芋見つけて笑顔



**12/23**  
ふれあい朝市 朝市の後はイムイムのクリスマスコンサートプレゼントをもらって嬉しい笑顔



**なにもなくっても みんなが集まれば笑顔が生まれる 子どもの笑顔で元気が生まれる。**

**2019年**

**1/15**  
とんど祭り 皆んなの願いが届くように



**2/1**  
豆まき 鬼さんと鬼ごっこ



**5/25**  
岡田大運動会 岡田地区と辻田地区の大綱引き



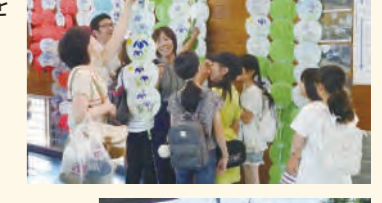
**5月・6月**  
玉ねぎ・じゃがいも・さつまいも子どもたちからいっぱい笑顔をもらいました



**6/9**  
しょうぶ祭り 菖蒲園に苗を植えました元気に育ってね みんなでうちわのオブジェを作りました



**6/28**  
グラウンドゴルフとカレーパーティー 畑のじゃがいもと玉ねぎと子どもたちの感謝いっぱい



**7/13**  
真備・船穂総踊り 大人も子どもも雨の中頑張りました 幼児もトーマスに乗って参加



**がんばろう真備!**  
**なつまつり**  
小学生以下のお子様1人につき1枚、スペシャルカードを受付にて配布  
8月19日16時から  
三宅呉服店にて開催(雨天催行)  
【催し物】  
「日本一のだし売場」から駄菓子が出す記念品がつけます  
16:00~17:00  
18:00~19:00  
【お楽しみ】  
龍神マヒンジャー撮影&握手台  
17:00~18:00